

わが街で暮らす

諏訪市地域医療・介護連携推進センター

ライフドアすわの取り組み

地域包括ケアシステムを支える人々

92

■認知症の方との出会い
皆さんは、どのように他の人に手を差し伸べ、声をかける事が出来るでしょうか？

バスに乗車されるお客様の中には、障がいのある方や認知症のある方もいらっしゃると思います。「ある認知症の男性が職場に通うためにバスを利用したい」と諏訪市社会福祉協議会（社協）さんより相談があったのは、今から2年ほど前の冬でした。

会社としても初めての事で、どう接して良いのか手探りの中、特別扱いする事無く接する傍ら、高齢でも職場に安全に通っていたるようにボランティアの方、運転手が連携をとりながら見守らせていただきました。そんな中、目を輝かせ水を得た魚の様に仕事の話をしてくれた男性の姿に、この方は心から仕事に生き甲斐を感じ好きなんだと、私たちも力をもらい安全に送迎しなければ自分たちの公共交通という仕事の役割を改めて感じさせられました。しかしこれは決して運転手だけで

なく社協の方をはじめ、ライフドアすわ・ボランティアの方、職場の方、そして何より同乗された皆様の思いやりと協力があつたからこそ、約一年間ご本人の生き甲斐となる職場に通っていただけたのだと思います。

■心温まる高校生の気配り

以前、買い物帰りなのか重そうな押し車を持って乗車しようとしたおばあちゃんに高校生が声をかけ、車内に持ち込んでくれたことがありました。なかなか出来そうではないことをしてくれた高校生に、「ありがとう」とお礼を言ったおばあちゃんと高校生に笑みがこぼれました。そして私みたいなへんに嬉しい気持ちになった事を覚えています。

■バスは「地域の居場所」

バスには認知症の方だけでなく、他にも社会との繋がりとなる作業所に通われる方、ご年配の方、子供さん等いわゆる交通弱者と言われる方々の利用も多いです。「バス」という空間で知り合った者同士が思いやり、見守り、

アルピコ交通 中村百合香・高橋五月

社会に踏み出す一歩

「公共交通事業」

地域の皆さんと共に

時に談笑し合いお客様と運転手が一つになり心地良い時間を共有出来れば有難く思います。

「見守り」は目配り、気配り。そこに声掛けや手助けがあることで最初は恥ずかしいかもしれませんが

んが、皆が優しく笑顔になるのではないでしょうか。この見守りの輪が地域全体に広がっていったなら送り出した家族の方も安心してご自宅で帰りを待っていただけたかと思っています。

■かりんちゃんバスの役割

かりんちゃんバスは平成11年に、市民の声を受け誕生しました。時代と共に地域の状況に並び、路線系統を見直しながら住宅地と市役所・病院・商業施設などを結び、諏訪市内を今日も走り続けています。

■最後に

公共交通に携わる者としてお願いがあります。運転をしていると、バスが前にいて邪魔に感じる事が少なからずあると思います。両替や乗車券の購入、乗降等に時間がかかることが多くあります。その辺をご理解のうえ温かく見守っていただければ幸いです。そして是非バスをご利用なさってみて下さい。ご乗車心よりお待ちしております。

次回は10月12日掲載予定

